

広告

宇部興産中央病院医療最前線

―シリーズ患者さんに寄り添う専門医療(1)―



外科副院長
福田 進太郎

「内視鏡外科手術」の発達

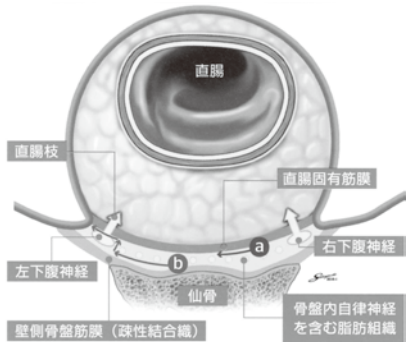
特に直腸がん手術について

1990年頃より報告され始めた内視鏡外科手術の発達はこの四半世紀余りで目をみはるものがあります。腹腔鏡下胆嚢摘出術が最初に報告されて以来その対象範囲は大腸・胃・肝臓・膵臓などの腹部消化器領域にとどまらず瞬く間に食道・肺・乳腺・甲状腺や泌尿器、婦人科領域でも重要な地位を占めるようになりました。その中でも最近進歩・普及が著しいのが直腸がんに対する腹腔鏡下手術です。

直腸は骨盤の中にある大腸の末端部で肛門につながる部位です。下肢に行く血管や排尿・排便・性機能に関わる臓器・神経が複雑に走行する狭い骨盤腔内を通りぬけるトンネルの様な臓器です。直腸がんの手術はこのトンネルの壁ごと周囲を傷つけないようにくり抜く手術と言えます。骨盤内は狭く直腸の走行もカーブしているため途中から非常に術野が見えにくくなり、熟達したベテラン外科医の「ゴッドハンド」と呼ばれる指先の感覚で操作を行う部位もありました。このため直腸がん手術は難易度が高く出血量・合併症も多い手術とされています。

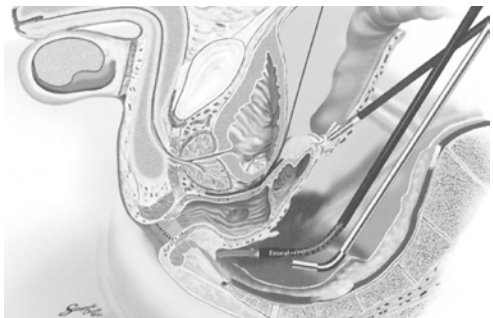
しかし優れた内視鏡が開発され、ハイビジョンや4K、3Dの画面で手術ができる様になり、今まで見にくかった技術が手術室内にいる全員の目の前で展開されるようになりました。これによる解剖学的知識、手術手技の教育的効果は絶大で、手術レベルの向上と手術手技の全国的標準化に大きく貢献しました。今まで遠くの施設に見学に行かなければならなかった技術がネット上で公開され全国の医師が共有できます。手術器具も超音波メスを始めとして止血機能に優れた手術器具が次々に開発され手術時間の短縮、出血量の減少や神経障害などの合併症の減少につながっています。

宇部興産中央病院でも直腸がん手術の殆どが内視鏡下手術で行われるようになりました。ハイビジョン内視鏡も設置され、外科チームで

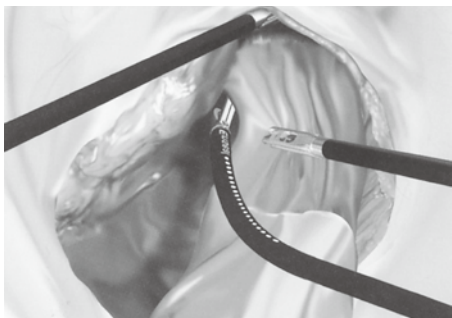


均一の手術が出来るようになりました。とはいえ直腸癌は発症部位が肛門に近いほど縫合不全が起きやすく一時的人工肛門を造設する場合もあります。手術前の画像診断、手術後の排尿・排便回数や頻度などについての説明をよく受けて理解しておくことが大事で外科・消化器外科の専門医に相談することをお勧めします。

お問い合わせは宇部興産中央病院外科外来
☎0836-5117407(まで)。



解剖学的アプローチ



直腸左側

宇部興産中央病院は**地域医療支援病院**です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地
地域連携室 ☎0836-51-9421

専門分野

- 消化器外科
- 肝胆膵外科
- 乳腺外科

認定医・専門医・指導医

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会指導医
- 日本乳癌学会認定医
- 日本大腸肛門病学会認定医
- 厚労省臨床研修指導医

得意とする診療内容

- 消化器外科
- 乳腺
- 甲状腺外科
- 肛門外科